

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0770102465		
法人名	株式会社コスモメディカルサポート		
事業所名	グループホーム 愛の里		
所在地	福島県福島市大森字街道下52		
自己評価作成日	令和3年11月12日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do">http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do</a>
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉ネットワーク
所在地	〒974-8232 福島県いわき市錦町大島2番地
訪問調査日	令和3年12月16日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念にもあるように地域に根差した、そして個々を尊重しその人らしい生活が送れる様に日々支援している。個別ケアとして医療で訪問マッサージを導入したり、職員が毎日個別ケアの時間を確保して簡単な歩行訓練や、関節の可動域訓練等を行い関節の拘縮防止に努めている。認知症の進行防止では資格を所得した職員を中心にくもん学習療法に取り組み、読み書きを行い脳の活性化を図っている。定期的にくもんのリモート研修にも参加し職員も日々勉強している。他には年間行事を計画し、利用者様を通してスタッフ間との交流を図り気分転換に努めている。また、コロナで外出ができないため、レクリエーション(トランプ、風船バレー等)の施設内での活動を多く取り入れ行っている。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者個人を尊重し、自己決定できるよう利用者主体のケアを徹底し、地域との交流や貢献を重視し、利用者が笑顔で暮らせるよう支援している。利用者本人・利用者家族・職員の意見や要望を聞く機会を頻繁に設け、出された意見や要望を肯定的にとらえ、事業所運営のために積極的に活用している。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが ○ 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は玄関やフロアに掲示し、その中で日々理念を意識しながら業務に取り組んでいる。個人を尊重し地域との関わりを大切に個別ケアに重点を置き、安心した日常生活が送れる様に支援している。	開所当時の職員が話し合い理念を作成し、事務所やフロアに掲示し、毎年、見直したほうが良いか継続でよいかの検討を行っている。地域の方と交流ができ、利用者の方が笑顔で過ごされている時に理念が活かされていると感じている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ前は近隣の保育所の運動会に招待を受け参加したり、敬老の日には来所して頂きし交流を図っている。他に運営推進委員の方々には運動会や秋祭りに参加して頂いたり時間の共有をはかっている。今年度はコロナウイルス感染症のため行われていない。	町内会の一斉清掃、地域の運動会などに参加し、回覧板を回してもらっている。敬老の日に園児が訪問し、交流しボランティア団体に、歌や踊りなどを披露してもらったりしている。中学生の職場体験の受け入れを実施している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域支え合いネットワーク協議会の実行委員として参加し、認知症の啓発に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度はコロナウイルス感染症のため行われていないが、まん延防止解除後、紙面での活動報告のみ行っている。	事業所脇の川の氾濫の可能性があり、水害には十分に注意してほしいとの要望があり、避難訓練において風水害を想定し毎年、垂直避難を中心とした訓練を実施している。避難訓練予定と実施状況、生活の様子や入退所や今後の行事について報告している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターの方々に運営推進会議に参加して頂き、現状を報告し相談やアドバイス等も頂きながら協力関係の構築に努めている。	制度改正や加算関係等の質問、コロナウイルス接種や感染症対策について対応助言指導について相談を実施している。地域の包括支援センターの活動で地区のネットワーク協議会に参加し、地域の活動に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体会議の中で頻りに「身体拘束、虐待」についての勉強会を行ない、正しい理解のもと日々の業務に励んでいる。やもなく身体拘束をやらざるを得ない利用者様が出た場合には頻りに会議を行い、必要性を確認しながら廃止に向けて取り組んでいく。	身体拘束排除宣言を掲げ、実践している。言葉の拘束に気づいたときは、ミーティング等で話し合い、職員同士で気づいたときには注意しあっている。一人歩きする方へは、その方に寄り添い、その方にあった声掛け対応をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日常の介護を職員間で確認しながら不適切なケアが行われていないかを見極め、お互いに注意を払ったり会議等で検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	状況判断が難しくなってきた利用者や、家族関係に不安のある利用者様、家族様には成年後見制度の話をしたり、活用に向けてのアドバイス等を行っている。研修会等にも参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には利用者様、家族様に十分に契約書、重要事項説明書についての説明を行い、不安や疑問点等を伺い納得頂いた上署名、捺印を頂いている。説明の中解約時の説明も行って了解を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナの為、家族報告会は、行われていなかったが、書面にて報告を行う。また、いつでも来所時には気軽に管理者や職員と意見、要望が言えるような関係作りを努めている。出され意見等は職員会議で検討し、運営に反映されるように努力している。	年二回実施している家族報告会で意見を出して貰い、利用者に寄り添って支援できるようにしている。看取りについての意見があり、事業所に対応してほしいとの意見があり、訪問看護を導入して看取りを実施している。意見や要望は、職員に周知し情報共有を行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は日常的に職員の意見や要望を聞いたり、月1回の会議に於いて意見や提案をまとめ、代表者へ報告し運営に反映させている。	エアコンや冷蔵庫の替え替え等提案あり、新しいものを購入して使い勝手がよくなっている。資格支援制度があり、種類によるが研修に関する費用の補助がある。職員と管理者の距離が近く、良い提案や意見等がすぐに反映させやすい体制をとることで向上心にもつながっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回人事考課表にて自己採点をし、第1次 第2次考課を行い、給与や賞与に繋げ向上心を持って働けるような環境作りを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ感染症拡大防止図りながら、個々の力量や適性を考慮し、リモート研修などを取り入れ、全職員が研修に参加しレベルアップを図っている。それを職員会議時にフィードバックし、働きながらトレーニングしている。他に会社独自に本社主催の研修会を儲け会社全体の底上げも図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で難しいですが、参加可能な研修には参加し、他同業者との交流を図ったり、他事業所の職員と意見交換や相互訪問等も行ってサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の会話の中で生活歴や経歴等を伺い、困っていること不安なこと等を把握、アセスメントを作成し職員で情報を共有しながら、本人が安心して生活が出来る環境や関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の話をよく傾聴し困っていることや不安なことを伺いながらコミュニケーションを図り、信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	会議等でアセスメントを十分に行い、家族にも必要なサービス内容を説明し、必要時には安心して生活が送れる様に他のサービスも検討し提供している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員はその人生に尊敬した立場を築けるように心掛けている。本人が出来ない事、出来る事を見極め日常生活の中で助け合いながら生活を共にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月1回担当職員が1ヶ月の様子や心身の状況を手紙に記して郵送したり、状況に変化を生じた場合には家族と連携を密に取ったりと家族との関わりを大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で現在難しい状態ですが、ご家族様の協力のもと、居室には馴染みの物を持参して頂いたり、関係が途切れないように支援している。また知人等の来所時には消毒、検温実施、マスク着用し、拡大防止を徹底した上で短時間ではあるが話し合いの場を提供している。	入居前からの馴染みの美容室へ出かけ、カットなどをしてもらっている。定期的に外食等を行うことにより、馴染みの店ができ、スムーズに利用する関係が出来ている。面会、電話の他、広報誌を月1回、発行して活動様子や状況報告などを伝えしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の個々の性格や生活状況を把握し、自然に関わりがもてる様に考慮し孤立しないように配慮している。またレクリエーションを通してお互いに支え合え一緒に行う事が出来る様に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても不安があれば情報提供したり、必要に応じていつでも来所可能である事も伝え家族、本人をフォローし関係の継続を図っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で本人の思いや意向の把握に努めたり、意思疎通の困難な方には表情や行動で察知したり、家族の協力を頂いたり本人本位に検討している。	日常生活の中の活動や家族が面会に来た際、利用者の様子伝えた時など家族より、生活歴、嗜好などを聞くことが多い。好きなもの、嫌いなものなど利用者の思い意向をケアに生かせるように工夫している。把握した思いや意向は、職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用して生活歴や生活環境、馴染みの暮らし方等を本人や家族から聞き取りを行ったり、日々生活の中で気づいたことはセンター方式の中に記載し、職員で情報を共有しながら把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活を通して心身の状況や生活パターンを把握したり、残されている機能を確認したりと業務の中で把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	会議の中で本人の課題を見つけ職員全員で計画書を作成し、1ヶ月後に見直しをかけ本人に即した計画書を再度作成しケアにあたっている。必要時は他職種とも話し合いを行いサービスに繋いでいる。計画書はその都度本人や家族の了解を頂いている。	残存機能を生かせるように本人の意向に添い対応している。本人ができる部分は任せたり、見守ったりしながら、本人が出来ない部分は必要な介助ができるよう計画をしている。変更時は、必要に応じて協力医療機関や、かかりつけ医の意見を聞いている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎月モニタリング、3ヶ月に1回評価を会議の中で行い職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の希望等、職員のアドバイス等でその時に生まれたニーズに対応し、口腔ケアや訪問マッサージ、往診等柔軟な支援サービスの多機能化に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍のため現在は外出することが難しいためテイクアウトを実施している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療機関は家族の意向に添い、状況を勘案しながら対応している。受診は極力家族の協力を頂きながら受診し、受診時には看護師が同行し医師には正確な情報提供をし受診に繋げている。	歯科や耳鼻科などの専門診療科目は、家族に通院対応してもらっている。定期的な通院については家族対応だが、急な体調不良には、職員で対応している。受診後、家族からの説明を貰ったり、病院等に連絡確認等を行うなどして受診結果の確認・共有を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は日常の関わりの中で知りえた情報や気づきは申し送り簿に記載したり、口頭で伝えたりと看護職との連携を図っている。看護職は個々に対応した結果は看護記録に記録し介護職にフィードバックし必要時は受診等に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は病院を訪問し確かな情報を提供したり、安心して治療が出来る様に支援している。そして入院中は相談員と密に連絡を取り、1日も早い退院に向けて努力している。また必要時応じて主治医とも気軽に相談できる関係作りを努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時や家族報告会等に於いて重度化した場合や、終末期のあり方等の説明をし家族の意向を確認している。そしてグループホームでの医療との関わりと、出来る事、出来ない事も説明し理解を頂いている。看取り時には病院との連携も図りながら日々チームで支援に取り組んでいる。	看取りに関する指針を基に看取り介護についての対応並びに医師からの説明を受け、利用者・家族の意向に沿った支援をしている。終末期対応後の職員には、家族からの感謝やねぎらいの言葉を伝え、今後のケアに生かしていくように意見を出し合っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルで把握するだけでなく、日々の業務の中で看護師の指導を受けたり、速やかに冷静に初期対応が出来る様に実践力を身に付けている。緊急時の連絡網も作成し密に連携を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2か月に1度火災、水害、地震時の避難訓練を実施し、終了後意見や反省点等を次回に繋いでいる。また災害時は緊急連絡網(セコム)を利用し、昼夜問わず全職員に連絡がとれる体制を取っている。	消防署立会の訓練を実施し、地域の方に参加して貰っている。有事の協力体制や連絡網の整備もしている。消防署立合い訓練後に、初動動作の大切さ、消防署への連絡など落ち着いた行動ができる様に日頃から意識して訓練を実施するようアドバイスを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々生活の中で個々の性格や生活パターン等を把握しながら、人格プライバシーを損ねない言動に気を配っている。いつも職員は人生の先輩である事を忘れないで業務にあたっている。	利用者は人生の先輩である事を意識し尊重し、言葉使いなどに気をつけるよう心がけている。個人を尊重し、その方に合わせた声掛け、コミュニケーションを心掛けている。利用者同士で、尊重やプライバシーを損ねるようなときは、職員が間に入り、傾聴し対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々に合った手法で意志や意向を確認し、自己決定が出来る様に働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人ひとりのペースを大切にするため必ず声掛けをし了解を頂きながら、何か訴えがあれば話を伺いながら希望に添えるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の好みに合わせて一緒に洋服を選んだり、2か月に一度くらいのペースでヘアカットを実施している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々に状況を把握し、無理なく食事が美味しく楽しんで食事が出来る様に支援している。また、後片付け等も利用者へ手伝って頂いたり、献立等の話し食事に繁栄させている。	その方に合わせてその人のペースで食事ができるようにしている。食べる力に合わせて、刻んだり、ミキサーをかけている。コロナ禍で外食は、現在行っていないが、テイクアウトの形で、提供し、ご馳走だと笑顔で食べてもらっている。職員も同じものを食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分摂取量は毎日チェックし調整している。水分制限やカロリー制限、糖質制限の必要な利用者は主治医と連携を図りながら、家族の了解のもと対応している。また嚥下状況により食事形態を考慮したり、トロミを使用したりと個々の状況により対応を検討支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施し、清潔保持、誤嚥性肺炎防止に努めている。必要な利用者には家族の了解のもと歯科医受診を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎日の排泄パターンを把握し、トイレへの誘導やリハビリパンツ、おむつ利用等の必要性を見極め、個々にトイレでの排泄に向けて支援を行っている。	利用者が気持ちよく過ごせるよう、その方に合った介助を行い、衛生的に過ごしてもらうようにしている。自立に向けて、声掛け、一部介助、全介助などその方に合わせた支援を行っている。排泄に失敗した時は、大丈夫ですよと本人の気持ちを組んで言葉かけをしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	必要に応じて水分補給を意識的に行ったり、体を動かして頂けるように支援している。また体調不良時等には主治医と相談して、医療で関わりを持ち便秘の解消に取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	1人ひとりの状態に合わせて入浴時間を調整したり、入浴を楽しめるように個々に合った支援をしている。また機械浴を設置し安全に安楽に入浴が出来る様に支援している	嫌がる人には、職員を替えたり、声掛けを体重測定や髭剃りをしませんかと、直接的な表現は使用しないよう工夫している。暖房器具を使用し、浴室や脱衣場の温度調整を行い、温度差をなくしている。入浴ができなかった方には、清拭や日時の変更などを行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	快適な空間を設定し、生活の流れやその時の状況に応じて、休息、安眠が出来る様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や用途も把握し飲み忘れ等がないように細心の注意を払って業務にあたっている。異常時は薬剤師や医師と連携を図り対処している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に合った力を把握し役割を持って日々生活が出来る様に支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為、現在は実施されておらず、以前は月1回の外食や買い物、近隣の散歩、年1回の日帰りバス旅行を実施し、家族にも同行して頂き時間の共有を図り、普段は行けない所へ出かけ思い出作りの支援を行っている。他に季節毎に戸外に出かけ季節感を感じられるような支援を行っている。	外の空気や光を浴びることの意味や役割を考慮し、駐車場や敷地内の散歩等をしている。行事で出かけるときは、本人の体調を把握し、座席の配置、場所の選定など楽しく出かけられるよう工夫している。家族から要望があった時には、家族の協力を得て対応している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は難しくなってきたので少額のみ預かり金庫に保管している。そして担当職員が出納帳を作成し間違いのないように管理し、必要時はお金を持参買い物に同行している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望すれば家族へ電話をしたり、年賀状や手紙、ハガキのやり取りの支援をしている。困難な利用者には職員が連絡を取り代弁したり、家族や大切な人との関わりを大事にしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節の花をプランターに植え季節感を味わっていただいたり、いつもフロアでは音楽を流し、温度も空調を利用し快適な室内温度を調整して、快適な空間を設定し、居心地よく過ごせるように工夫をしている。	一人ひとり、座席や好みの椅子など、危険がない限り本人の意思で選んで貰い、過ぎて貰っている。歩行や移動のため、余計なものを置かない、目印がわかるように書き、張り出している。うがい手洗い、予防接種、外部から持ち込まないよう感染症に注意している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々の性格や心身状況によってフロアでの自席を検討し、気の合った利用者同士で話をしたり、思い思いに過ごせるように廊下に椅子を置き、一人になる居場所の工夫もしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている。(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている。	入所時にテレビや椅子タンス等馴染みの物を持ち込んで頂いたり、茶碗、箸等も持参頂き在宅での生活が継続出来る様に支援している。また入室時はプライバシー保護の為ノックをしたり声掛けを行っている。	動線をかんがえ、家族に聞きながら生活歴にあった家具の配置を心掛けている。居室を間違わないよう、目印になるなじみの物を置いて工夫している。清掃は職員が行い、着替え等は居室担当職員が責任を持って行っている。出来る利用者とは一緒に職員が行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの「出来る事」「わかる事」を把握し、居室の確認のため本人がわかる目印を付けたり、手すりを利用しての歩行の自立支援を行っている。そして車椅子利用者には自力移動が出来る様に障害物を取り除いたり、環境整備も行っている。		